

令和元年6月26日現在

機関番号：34604

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16691

研究課題名(和文)鎌倉時代後期の宮廷における王朝文化継承と新文化創出の再検討 伏見院の宮廷を中心に

研究課題名(英文)A Review of Dynasty Cultural Succession and New Cultural Creation in the Court of The Late Kamakura period:Particularly Focusing on Fushimiin's Court

研究代表者

阿尾 あすか(AO, ASUKA)

奈良学園大学・人間教育学部・准教授

研究者番号：30523360

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文):本研究では、鎌倉時代後期の宮廷、特に伏見院の宮廷における王朝文化の継承と、新文化創出の様相について、和歌文芸の活動を中心に検討を行った。伏見院は京極派和歌の庇護者であり、代表歌人でもある。本研究では、伏見院周辺で書かれた日記文学『中務内侍日記』における和歌の役割や、伏見院の和歌における漢文学摂取表現の検討を通して、伏見院宮廷における平安王朝文学継承の様相、鎌倉時代後期の文化における伏見院宮廷の文化の独自性、京極派歌風形成期において伏見院の果たした役割について明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果の学術的意義は、これまで鎌倉時代の一時期に起こった特異な事象と捉えられがちであった、伏見院と廷臣・女房たちの京極派和歌の活動を、鎌倉時代の文化史の流れの中に位置付けた点にある。本研究では、伏見院の和歌表現の漢詩文摂取の様相や、院に仕えた女房の『中務内侍日記』での和歌の傾向の検討を通して、伏見院宮廷で和歌が宮廷内の人々の結束を固める役割を果たしていたことや伏見院の文芸活動の基盤はあくまでも、平安時代以来の王朝文化で培われた教養にあることを明らかにした。京極派歌風の形成の過程と文化継承の様相を明らかにした点も本研究の学術的意義である。

研究成果の概要(英文):This study examines the succession of the cultures of the dynastic age and the aspect of new culture creation in the court in the late Kamakura period, especially Fushimiin's court, focusing on waka literary activities. Fushimiin was a protector of Kyogokuha-Waka and was also its representative waka poet. This research clarifies the aspect of the succession of dynastic style literature of the Heian period in Fushimiin's court, the originality of the culture of Fushimiin's court in the culture in the late Kamakura period, and Fushimiin's role in the forming phase of Kyogokuha-Waka through the investigation about waka's role in "the Diary of NakatsukasaNaishi," a diary literature written at the periphery of Fushimiin, and expressions influenced by Chinese classics in Fushimiin's waka.

研究分野：中世韻文学

キーワード：伏見院 京極派和歌 宮廷文化 鎌倉時代文化史

## 1 研究開始当初の背景

代表者は、鎌倉後期の天皇で、持明院統の領袖にして京極派和歌の代表歌人でもあった伏見院の和歌についての研究を行ってきた。これまでの研究を通して、伏見院とその宮廷のあり様が、その後の持明院統の天皇と宮廷の規範となってきたこと、また、伏見院の歌人像とその宮廷文化の性格には不明な点が多いことが明らかとなった。伏見院の京極派和歌を中心とする文芸活動は、「宮廷文化」としてではなく、伏見院とその周辺の廷臣・女房たちの私的で閉じられた空間での活動として捉えられがちであった。また、鎌倉時代後期の宮廷の文芸活動自体も、「宮廷文化」という視点では捉えられず、その文化の発信力については過小に評価される傾向にあった。伏見院宮廷では、書道や絵画などの芸術作品が生み出されていたことが、近年の美術史研究で明らかとなっている。京極派和歌も、そうした伏見院宮廷での文芸活動の一つとして位置づけて再考する必要がある。

## 2 研究の目的

伏見院の和歌活動を、院の宮廷の文芸活動という視点で捉え直し、書道や美術などその周縁の活動も視野に入れることで、文化サロンとしての伏見院宮廷の役割の再評価を行うことが目的である。また、大覚寺統の宮廷を中心とする同時代の資料や和歌を比較の対象とすることで、当時の宮廷文化の持つ同時代性と、伏見院宮廷の独自性を明らかにする。最終的には、鎌倉時代後期の宮廷の文化発信力の再評価へとつながるような研究を行うことが目的である。

## 3 研究の方法

下記の方法を用いて、研究を計画した。

### A 伏見院およびその周辺の歌人の古筆資料の料紙装飾や書様、内容の検討

宮廷の文化の洗練度が最も表れていると考えられる浄書レベルの古筆資料、絵巻などを検討の対象とする。また書様や題材などの検討を通して、王朝文化の影響があるかどうか、またあるとすればどのようなものかを明らかにする。

上記の検討を通して、伏見院宮廷の文化における王朝文化継承の様相を明らかにする。

### B 伏見院宮廷が享受した王朝文学が京極派和歌の表現にどのような影響を及ぼしているかの検討

伏見院を中心とする前期京極派の和歌表現や、伏見院宮廷で書写された古本、『中務内侍日記』等の周辺で作成された同時代資料から、伏見院宮廷がどのような王朝文学を享受したかを検討する。また、それらの王朝文学が前期京極派和歌の歌風形成にどのような影響を与えているのかも検討する。

### C 同時代の古筆資料や和歌表現における王朝文学摂取の検討

当時、伏見院と対立していた大覚寺統の宮廷を中心とする同時代の絵巻や和歌にも、王朝文化の受容が見られるかを検討する。また、Bの伏見院宮廷の王朝文化受容と比較し、鎌倉時代後期宮廷における王朝文化受容の同時代性と、伏見院宮廷のみの独自性を明らかにする。

### D 現存する伏見院とその周辺の歌人の古筆資料のうちの草稿レベルの和歌資料の検討

伏見院とその周辺歌人の古筆資料のうち、草稿レベルのものを扱い、その内容や書様の傾向が

ら、それら草稿資料の成立過程を明らかにする。

#### E 成立の明らかとなった草稿の和歌表現の比較検討

伏見院の和歌草稿には他の草稿にも同じ歌が重出していたり、他の京極派歌人の歌が紛れ込んでいたりする。前者の重出歌については、草稿によって一部の表現が変更されていることが多く、何度も推敲されていたことがわかる。この重出歌の推敲された表現を検討し、どのようにして推敲されているのかを明らかにする。また、他の京極派歌人の他出歌を検討し、伏見院の草稿がどのような経緯でまとめられたのかを考察する。京極派歌風の形成の過程と、伏見院と前期京極派歌人の歌壇での和歌活動の実態を明らかにする。

上記の方法を計画したが、Aの浄書レベルの古筆資料の調査・検討に時間がかかるため、A～Cの研究の方法と計画に絞って研究を行った。

#### 4 研究成果

当該研究では、当初、研究計画に基づき、研究方法A、伏見院とその周辺歌人の浄書レベルの古筆資料の調査・検討を行った。まず、伏見院筆とされながら不明点の多い堀川切を中心に、伏見院筆とされる古筆切の検討を行うこととしたが、堀川切が各所に散在することや、所蔵先の事情等で閲覧許可が下りない資料があったことなどで、研究に所要する時間が予想外にかかることが推測された。そのため、途中で予定を変更し、先に研究方法Bに着手することを余儀なくされた。B・Cに重点をおいて、得られた成果は下記のとおりである。

1)京極派歌風形成期に漢詩文からの表現摂取が盛んに行われ、歌風に影響を与えたことはすでに指摘されている。本研究では、伏見院の、漢詩句を句題とした和歌題を検討し、典拠となった漢詩句を調査した。結果、伏見院の和歌題が典拠とした漢詩句は、平安時代の王朝文学が典拠としたそれと大差がなく、むしろ王朝文学からの影響を受けるものであることが明らかとなった。伏見院の和歌表現を取り上げても、典拠となる漢詩句には同様の傾向が見られた。また、和歌の典拠とした漢故事についても、平安院政期以降、和歌で好まれた題材が選ばれているなど、同時代の受容の様相の範疇にあったといえる。だが、表現そのものは、京極派風の詠みぶりであったり、他の京極派歌人とも異なり、院自身が個人的に気に入って漢文訓読調の言い回しを取り入れたものがあつたりと、独自性を示している。

2)春宮時代の伏見院に仕えた『中務内侍日記』の記事から和歌に関するものを抽出し、和歌の内容と詠まれた場面・状況を分類・分析すると、伏見院の春宮時代より、和歌が、春宮と廷臣・女房たちの連帯を強め、また春宮とその宮廷生活を讃えるための役割を果たしていたことが明らかとなった。同日記の記事では、伏見院と廷臣・女房たちが共通する宮廷生活の思い出を共有する際に、和歌が効果的に詠まれており、また、この頃から、メンバーの一人が詠んだ特異な和歌表現を共有して、別の場で再度詠み合うということが行われている。同日記からは、伏見院宮廷の文化サロンと京極派歌壇が形成されていく初期の過程が窺われる。春宮時代の伏見院の宮廷が、

『源氏物語』などの王朝文学を愛好したことは同日記の記事に見え、また、初期の京極派歌壇内で、平安時代の歌集をもとにした贈答歌集が作られていたことも、近年みつかった伝後伏見院筆歌集断簡の研究により判明している（ ）。伏見院宮廷が王朝文芸を継承する文学サロンの役割を果たし、それが京極派歌壇の母胎ともなったことが窺われる。

なお、宮廷の廷臣・女房たちが、共通する宮廷生活の思い出や和歌を共有して結束をたかめるということは、大覚寺統宮廷で作成されたとおぼしき『尹大納言絵巻』（福岡市美術館本）の画中人物の会話からもうかがえる。持明院、大覚寺の両皇統では、それぞれの宮廷で文化サロンが形成され、そこから歌壇が出来上がったものと考えられる。『尹大納言絵巻』については所蔵先の事情により期間内での閲覧調査が間に合わなかったため、今後成果を発表する予定である。

3) 京極派和歌は、これまで、持明院統の天皇と廷臣・女房達だけで構成された閉鎖的な集団での和歌活動として捉えられがちであった。だが、小林一彦氏の指摘（ ）にもあるように、持明院統の勅撰和歌集入集を目当てに伏見院宮廷に出入りする武家歌人は、状況に応じて、二条派風にも京極派風にも詠んだのであり、そうした人物の存在は、京極派和歌が伏見院宮廷の文芸サロンから生み出されたものと考えれば説明がつく。また、京極派和歌で評価の高い叙景歌の特色を検討していくと、そのほとんどが、藤原定家ら新古今歌人の新風模索期の表現や、宗尊親王ら関東歌壇の叙景歌の表現を学んだものであることがわかる。その中での京極派和歌の独自性を検討していくと、全く独自の表現は、和歌における詞の続け方にあった。「歌の姿」にこだわらず、和歌で表そうとする事象を正確に言い表そうとすれば、和歌の余情が失われ、理詰め之歌になってしまう危険をはらんでいる。京極派和歌の理詰め之歌の中には、文芸性の低いものも含まれるが、そうした作が生まれる背景は、その詞の続け方にあったと考えられる。

以上三点が主な研究の成果である。古筆資料の調査については、代表者の調査時間の捻出と、資料所蔵先の許可とが兼ね合わなかった点があり、当該研究終了後も引き続き、研究を行い成果を発表する予定である。

#### 引用参考文献

久保木秀夫、「伝後伏見院筆歌集残簡 京極派歌人の贈答歌集」、国文学研究資料館紀要、27号、2001 のちに『中古中世散佚歌集研究』、2009、青簡舎 所収

小林一彦、「京極派歌人とはいかなる人々を指すか 大江茂重の異風」、『国語と国文学』、81 巻5号、2004

#### 5 主な発表論文

〔雑誌論文〕全7件

阿尾あすか、「日本宮廷文学の公共性 「勅撰和歌集」という公共事業」、李禧柱編、『高麗時代の公共性1』、依頼論文、韓国学中央研究院出版部、2016、全207頁、本人担当執筆 pp.191-207  
韓国語による翻訳

阿尾あすか、「家」という日本の中世的公共性について 「歌の家」を中心に」、李禧柱編、『高麗時代の公共性2』、依頼論文、韓国学中央研究院出版部、2016、pp.203-226 韓国語による翻訳

阿尾あすか、「日記と和歌 『中務内侍日記』を例に」、倉本一宏編、『日記で読む日本史 日本人にとって日記とは何か』、依頼論文、思文閣出版、2016、pp.201-230

阿尾あすか、「伏見院の和歌題と漢文学」、『国語国文』、査読有、86 巻 4 号、2017、pp.204-215

阿尾あすか、「中世和歌における『子猷尋戴』故事の変容」、森田貴之・小山順子・蔦清行編、『日本人と中国故事 変奏する知の世界』、依頼論文、勉誠出版、2018、pp.48 - 58

阿尾あすか、「【研究ノート】伏見院の悲秋歌の解釈について」、奈良学園大学『人間教育』、査読無、2 巻 3 号、2019、pp.100-94

阿尾あすか、「京極派和歌の独自性とは何か」、松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘編、『古典文学の常識を疑う』、掲載確定、勉誠出版、2019 年 7 月刊行予定、頁数未定

〔学会発表〕全 1 件

阿尾あすか「伏見院の和歌における強調の句表現について」、和歌文学会関西例会、2017 年 12 月、於大阪市立大学

〔図書〕全 0 件